

平和へのメッセージ



よしえ
鎌田淑恵さん
(大住小学校6年)

平和な世界・地球・に

信じられませんね。今、こんなに平和な土崎が空しゅうでおそわれ、たくさんの犠牲者がでたなんて…。このことを知ると、「自分だけが幸せならよいのではない」と、思うようになりました。

今、日本は平和な国です。平和すぎるのかもしれませんが。ちょっとしたことで人を殺したり、物をぬすんだり、昔の人の苦勞を忘れているようです。

土崎空しゅうについてのビデオを見ておどろきました。この土崎に一万二千ぱつものばくだんがおとされたというのです。たくさんの人を犠牲にしたと考えると、同じ地球にすむ仲間として悲しくなります。半日早く戦争が終わってればこの犠牲はさけられたと分かると、くやしくてたまりません。

私はいつかは戦争がなくなると信じています。私達もできるかぎり努力し、戦争のない地球にするためにつくしたいです。そして、みんなが助け合い、同じ地球にすむ仲間だと分かり合う人々がすむ、平和な地球になることを願います。



土崎の「平和の碑めぐり」に参加した浅野さん(牛島東七丁目)のご家族

親から子に語り継ぎたい

母ひとみさん…自分が戦争を経験していないので、子どもに話して聞かせることができません。土崎空襲は自分も知りたかったし、子どもにも伝えたいと思い親子4人で参加しました。親から子へ、その子が親になってまた子へと、語り継げればいいですね。

長女ちひろさん…土崎空襲は話に聞いていたけど、こんなに恐ろしいものだと思わなかったのでびっくりしました。戦争は二度と起こしちゃいけないし、幸せに生きるためにもないほうがいい。今日見たり聞いたりしたことを、友だちにも教えてあげたいです。



岩間さんが手にしているのは、兄・久平さんが空襲で死んだときに着ていた服。爆弾の破片が刺さった穴があいています。

今でも兄は6年生のまま

岩間重美さん(64歳・土崎港西二丁目)

八月十四日、私は強制児童疎開のため土崎の家族と別れ、豊岩にいました。土崎の家には、祖父、両親、兄が残っていました。

父は勤務先の当直のため不在で、空襲が始まってからは、母と姉、兄の三人で防空壕に避難しようです。そして、空襲の切れ目に他の防空壕に移動する途中、近くに爆弾が落ち、兄は腹に爆弾の破片が刺さりました。母と姉は助かりましたが、兄は二、三時間後に亡くなったということです。

私は土崎が空襲を受けたという話を聞き、嫌な予感を抱きながら家に帰りました。八月十六日の午後だったと思います。兄の火葬には間にあわず、兄の最後の姿を見ることはできませんでした。母は泣いていて、その後母から空襲の話聞いたことはありません。

兄とは、近所の子どもたちと一緒に遊びました。兄は、いざとなれば気の強い、いわゆるわんぱく小僧でした。私の中では、今でも兄は小学校六年生のままです。

戦争はもういやです。二十一世紀は戦争のない平和な世紀にしてもらいたいと思います。

本

●土崎空襲の記録です



語りつぐ平和を(全13集)

平和を語りつぐ秋田婦人の会/発行

土崎空襲体験者の証言をまとめた文集です。数々の体験談で戦争当時の心情・状況が克明に再現されています。心の声をお聞きください。

これらの本は市立図書館で借りられます



はまなすはみた

佐々木久春/文 斎藤昇/絵
土崎港被爆市民会議/編集

土崎空襲のいたましい記録の絵本です。尊い犠牲者の無念の叫びを伝え、平和を願う市民の声を表現しています。